

集落支援だより

No.16



ハスノハカズラの実

シカは食べませんが、イノシシの反応は？

問い合わせ

岩国市中山間地域振興室
集落支援員 金丸 恵子

「島 EXPO」 五感で楽しむ島々の祭典

2025年9月6日(土)・7日(日) 会場：インテックス大阪



祝島の方

柱島の平林さん

今年も昨年に引き続きインテックス大阪で食の祭典が開催されました。大阪万博も開催中で、今回は島の特産品の売り込み商談ばかりでなく、一般の来場者に向けて島自慢の特産品を各ブース持ち込み、呼び込み声も賑やかに聞こえる会場でした。島づくり推進協議会の平林さん、8月に就任した協力隊員の梅崎さん、金丸支援員の3人で柱島群島の知名度アップのため、奮闘しました。開会式の後には、県別に島の紹介が始まり、平林さんが祝島の方と壇上にあがり、島手拭いを掲げながら柱島愛をぶち上げ、大きな拍手を受けました。

梅崎隊員や漁協の方が取り組んでいる籠牡蠣の紹介やお馴染みの「寒ヒジキ」、島手拭いの販売、今年度は寺崎商店のお孫さんが、シーグラスにサメやクラゲの絵を描いた作品も販売しました。きれいな色に惹かれ、何人もの人が手に取りました。缶バッジは可愛いと好評でたくさんの方がガチャを回しました。思わぬ所で缶バッジの猫に再開するかもしれませんね。

猛暑の中で何度も電車を乗り継いでの移動は、中々にしんどいものです。涼しくなったら身体を鍛えなおそうと平林さんや梅崎隊員の後を追いかけて密かに支援員の私は決意しました。



初参加の梅崎隊員も奮闘中！



「柱島 離島地域環境美化交流促進事業」 R7.10.4(日)



「柱島に行こう会」の呼びかけで、柱島に41人の関係者が集まり草刈り作業を行いました。前日からの雨の影響で草木は水分をたっぷり含み、刈るのも集めて運ぶ作業も大変な重労働になりました。場所によっては、イノシシの気配も感じられたそうです。

草刈り作業には何度も参加している支援員ですが、今回は刈った草の運び出しや道路に積もった土砂上げに、腰が痛くなりました。70代、80代の方を目の前にして弱音は吐けず、島の方々の強肩ぶりに敬意を払うばかりです。

島で一番問題になっているのは、イノシシによる被害です。島民の数よりイノシシの頭数が多いのは間違いのないようで、俗にいう「豚コレラ」に感染した豚を島に連れて来のが手っ取り早いという、ユーモラスな意見もありますが、頷きたくなる現状です。空き家に侵入する個体もいるので、空き家の管理は、もちろん、人と獣の境界線をはっきりするためにも草刈り作業の重要性は、益々増してきます。



黒島の元切符売り場の活用

10月から始めた黒島の元切符売り場を活用する取り組みもクリスマスの装いになりました。

切符売り場を大掃除するかたわら、ふれあいの家でダイオウショウを利用したマツブックリツリー制作を始めました。島の住人の方はもちろん、山崎さんや藤田さんご夫婦に協力していただき、手作り感あふれる待合に生まれ変わりました。

これからも島民の方と相談して、もっと島の関係者を巻き込み、アイデアを出し合ってより楽しい待合所作りを目指して行きたいと思います。例えば感想を書いてもらうノートを置くとか…。手作りの自慢の作品を飾るとか…。島を盛り上げて行きましょう!!



制作風景、お疲れの方もいらっしゃいます。



クリスマスバージョンの完成です。

【編集後記】

今年は集落点検が終わってなかった柱島に猛暑の中、通いました。訪問宅の外で待っていて、次の訪問宅まで連れて行って下さった堀江さん、ありがとうございます。

端島に久しく上陸していないのが、気がかりですが、船の中からお元気そうな様子を伺っています。

集落支援だより

No.17



ゆるキャラが
いっぱい会場!

問い合わせ

岩国市中山間地域振興室

集落支援員 金丸 恵子

きららでキラリ! 県民つながるフェスタ 2025

2025年10月26日(日)
会場:山口きらら博記念公園



今回いづくに市民活動支援センターの方からお誘いをいただき、「県民つながるフェスタ 2025」に柱島群島の島づくり推進協議会のメンバーと参加しました。広大な会場では「夢はなマルシェ 2025」も開催されており多くの来場者で賑わっていました。県民つながるステージでは「ガンバレルーヤ」さん

が大うけしていました。私たちのブースは県民つながるテントの一隅で、柱島群島の知名度を高めるため、マップや紹介資料を持参しPRに努めました。子供たちは、シーグラスを利用したオリジナルフォトフレーム作りを楽しみ、シーグラスの由来も学んだと思います。どんな写真が入るか楽しみです。



アイランダー 2025

R7.11/22±23日

会場：池袋・サンシャインシティ



アイランダー2025は、八丈島の力強い太鼓で始まり、80を超える島々が、東京の池袋サンシャインシティに集合しました。

柱島群島の島づくり推進協議会では、特産品「寒ヒジキ」の販売、梅崎協力隊員を始めとして漁協の皆さんが取り組んでいる「籠牡蠣」のPRに力を入れました。

離島ブームで島巡りをしている人には、地図で場所を示して説明できたので、島に興味を持たれた方は、ポスターと地図で可視化でき、より興味を持っていただけたかと思います。

狭いスペースではありますが、ワークショップを設けシーグラスを利用したフォトフレーム作りをおこないました。セメダインやボンドで貼り付けましたが、量の調節が以外に難しいらしく、「あ〜、どうしよう！出過ぎー」などかしましい声が聞こえました。「家に帰って炬燵の中でじっくり作りたい！」とおばあちゃんも買って帰られました。

会場では、情報交換や再開を喜んだりスタッフも盛り上がり、11月に岩国市で職員向けにおこなわれた「地域づくり協働推進研修会」の講師として来庁された行平真也氏も会場にその姿があり、梅崎協力隊員と話が弾んだようです。

会場を回っていたら離島への求人広告が目にとまりました。そこにはガンシンさんが出した柱島への求人広告がしっかり張られていました。島に思いのほか遠くから働きに来られる方が出現する可能性もあります。

【編集後記】

2年連続のアイランダー参加となりました。昨年に引き続き、前自治会長笹川さんの娘さんが、千葉から応援に駆けつけてくれました。呼び込みや販売とお手伝いありがとうございました。

